

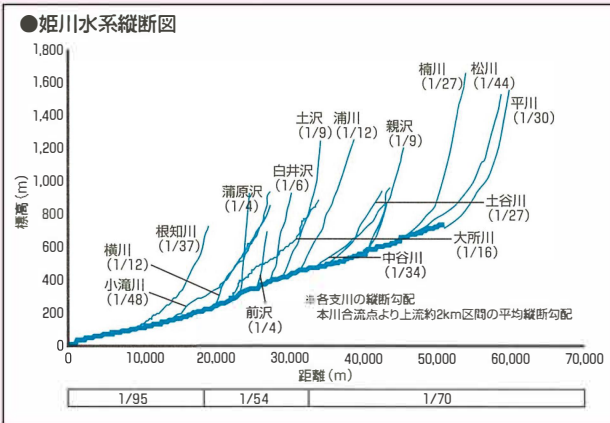


姫川流域

姫川は白馬村南部の佐野坂に源を発し、北流。白馬連峰から大量の土砂を流出する平川、松川を合わせた後、稗田山の崩壊地を上流にひかえて荒廃が著しい浦川を合流すると、川幅が最大300メートルにも達し、転石で埋め尽くされた来馬河原が広がります。そして流下し平地部に入り、根知川を合流して新潟県糸魚川市で日本海に注いでいます。

ほぼ姫川に沿って走る糸魚川—静岡構造線を境として、東の新第三紀層の新期岩類から成るフォッサマグナ側は地すべり活動が活発で、西の古生層の古期岩類から成る北アルプス側は脆く崩れやすい特徴を有し、たびたび大規模な災害を引き起こしては尊い生命や財産を奪ってきました。

相次ぐ災害に苦しめられてきた姫川流域において直轄砂防事業が開始されたのは昭和37年。松川、平川と続いて砂防堰堤の工事に着手しました。その後、昭和39年に浦川、45年に大所川、54年に小滝川、63年に根知川を直轄砂防区域に編入しました。



●浦川上流の荒廃状況



●姫川源流／親海原



●砂防計画基準点 山本橋地点



姫川流域と管内図で取り上げた砂防施設